

# リンゴ及びナシのヒメボクトウに対する 性フェロモン剤の交信かく乱効果

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

部門名 果樹－リンゴ・ナシ－病害虫防除

担当者 星 博綱・佐々木正剛・川口悦史

## I 新技術の解説

### 1 要旨

新たに開発された性フェロモン剤「ボクトウコンーH」(農薬登録申請中、平成27年2月13日現在)の10a当たり100本処理は、リンゴ及びナシの難防除害虫であるヒメボクトウ成虫に対する交信かく乱効果が高い。

- (1) リンゴ園及びナシ園におけるボクトウコンーHの10a当たり100本処理は高い交信かく乱効果が認められた(図1, 2)。
- (2) リンゴ園の3mの高さに設置した処理区のフェロモントラップに雄成虫の誘殺が見られたが、対照区と比較すると高い交信かく乱効果が認められた(図3)。
- (3) 以上のことから、リンゴ園及びナシ園におけるボクトウコンーHの10a当たり100本処理は、ヒメボクトウ成虫に対する交信かく乱効果が高い。

### 2 期待される効果

- (1) リンゴ及びナシの難防除害虫を性フェロモン剤により防除することで総合的病害虫管理(IPM)に貢献できる。

### 3 適用範囲

県内のリンゴ及びナシの被害発生地域

### 4 普及上の留意点

- (1) 性フェロモン剤の小規模処理は効果が不安定になる場合があるのでなるべく広域的に使用する。
- (2) 幼虫期間が3年以上と考えられているため3年以上継続して使用する。

## II 具体的データ等

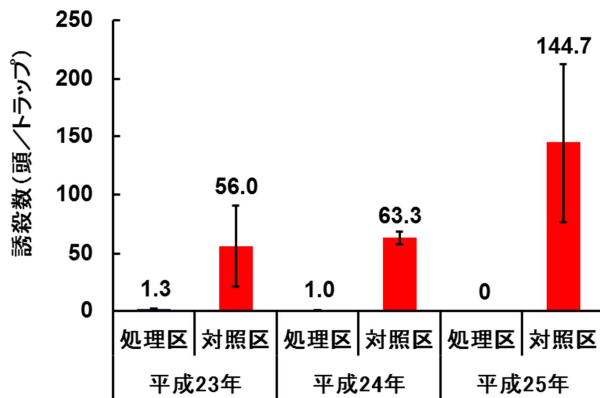


図1 リンゴ園における雄成虫の誘殺数(福島市)

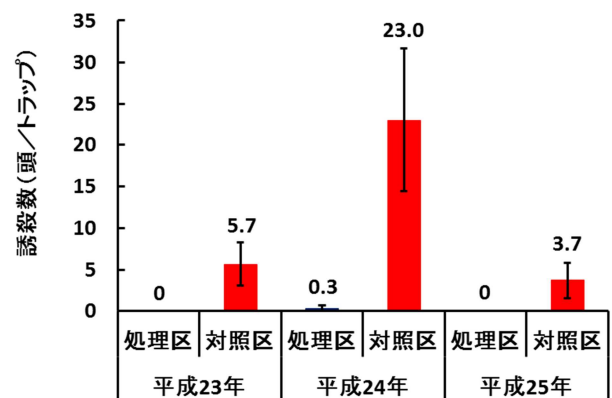


図2 ナシ園における雄成虫の誘殺数(いわき市)

注)福島市のリンゴ園(約 10a)といわき市のナシ園(約 10a)に、成虫発生前の6月中旬にボクトウコンーHをリンゴ園では目通りの高さ(約 1.5m)、ナシ園では棚面の高さに10a当たり 100 本処理し、同地区内に慣行防除の対照区を設け、6月中旬から8月下旬まで各区に3台ずつフェロモントラップを設置し、雄成虫の誘殺数を調査した。

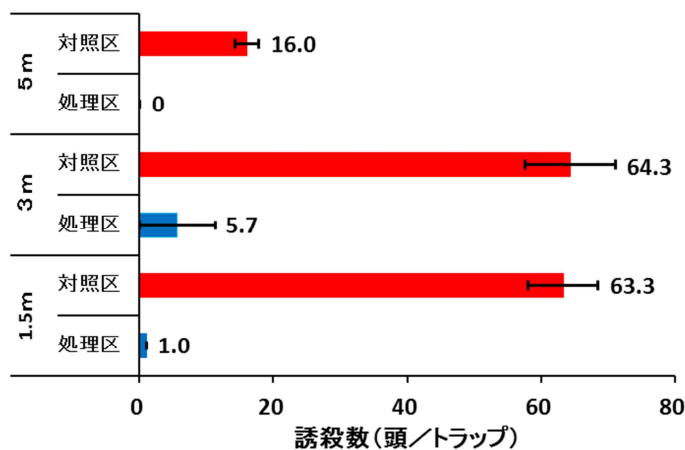


図3 高さ別フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数(福島市、平成 24 年)



図4 リンゴ園に設置したボクトウコンーH

注)平成 24 年は目通りの高さに加えて、3mと5mの高さにも各区3台ずつフェロモントラップを設置した。

## III その他

### 1 執筆者

星 博綱

### 2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～25年度
- (2) 研究課題名 リンゴ、ナシ産地を蝕む「ヒメボクトウ」に対する複合的交信かく乱防除技術の開発

### 3 主な参考文献・資料

- (1) 平成 21 年度 福島県病害虫発生予察特殊報 第2号